

文学理論		通年 4 単位	
物語構造の討究		井上 明芳 (いのうえ あきよし)	
ねらい	どのような文学研究でも、〈読む〉という行為を欠かすことはできない。そのためには〈読み〉の可能性を引き出す方法論を習得する必要がある。〈読む〉とは何を読むことなのか。その目的と方法を習得する。		
授業計画	<b>【前期】</b> 第1回 ガイダンス 第2回 物語(テキスト)の構造分析について 1 第3回 物語(テキスト)の構造分析について 2 第4回 芥川龍之介「羅生門」の構造分析 1 第5回 芥川龍之介「羅生門」の構造分析 2 第6回 太宰治「走れメロス」の構造分析 1 第7回 太宰治「走れメロス」の構造分析 2 第8回 太宰治「桜桃」の構造分析 1 第9回 太宰治「桜桃」の構造分析 2 第10回 志賀直哉「小僧の神様」の構造分析 第11回 国木田独歩「牛肉と馬鈴薯」の構造分析 第12回 芥川龍之介「歯車」の構造分析 1 第13回 芥川龍之介「歯車」の構造分析 2 第14回 横光利一「機械」の構造分析 1 第15回 横光利一「機械」の構造分析 2	<b>【後期】</b> 第1回 演習 1 第2回 演習 2 第3回 演習 3 第4回 演習 4 第5回 演習 5 第6回 演習 6 第7回 演習 7 第8回 演習 8 第9回 演習 9 第10回 演習 10 第11回 演習 11 第12回 演習 12 第13回 演習 13 第14回 演習 14 第15回 構造分析の意義について(まとめ)	
進め方	前期は基本的に講義形式で進めます。多くの論理に触れてもらいます。上記予定に掲げた作品を事前に読んで講義に臨んで下さい。後期は、演習形式で進めます。発言したり質問したりといった社会的な力を養います。取り上げる作品は、前期中にみなさんと相談の上決定します。		
テキスト	講義中取り上げる小説。ガイダンスで詳しく説明します。	参考文献	「〈読む〉ための理論」世織書房 ロラン・バルト 「物語の構造分析」
評価方法	出席状況:20% 発表内容:30% レポート:50%		

国文学特講 I		通年 4 単位	
日本近代文学とジェンダー		鈴木 直子 (すずき なおこ)	
ねらい	ジェンダー・セクシュアリティに関する概念・歴史・理論などについて、基本的な文献をいくつか読みながら、ジェンダー論の基礎を学びます。日本近代文学への新たな興味関心を開けるよう、身体・少女・モダンガール・恋愛・娼婦など、さまざまなトピックについても幅広く学びます。		
授業計画	<b>【前期】</b> 第1回 イントロダクション 第2回 テキスト講読 文学とジェンダー 第3回 テキスト講読 女性身体とジェンダー 第4回 テキスト講読 少女性とジェンダー 第5回 テキスト講読 母性政策とジェンダー 第6回 テキスト講読 民族・国家とジェンダー 第7回 テキスト講読 ファンタジーとジェンダー 第8回 テキスト講読 異類とジェンダー 第9回 テキスト講読 ことばとジェンダー 第10回 テキスト講読 売買春とジェンダー 第11回 テキスト講読 セクシュアリティとジェンダー 第12回 テキスト講読 平和とジェンダー 第13回 テキスト講読 スポーツとジェンダー 第14回 まとめ1 第15回 まとめ2	<b>【後期】</b> 第1回 後期イントロダクション 第2回 オリジナル発表・ディスカッション1 第3回 オリジナル発表・ディスカッション2 第4回 オリジナル発表・ディスカッション3 第5回 オリジナル発表・ディスカッション4 第6回 オリジナル発表・ディスカッション5 第7回 オリジナル発表・ディスカッション6 第8回 オリジナル発表・ディスカッション7 第9回 オリジナル発表・ディスカッション8 第10回 オリジナル発表・ディスカッション9 第11回 オリジナル発表・ディスカッション10 第12回 オリジナル発表・ディスカッション11 第13回 オリジナル発表・ディスカッション12 第14回 まとめ1 第15回 まとめ2	
進め方	参加者各自の問題関心に沿ったテーマとテキストを選び、文献を読んでディスカッションします。後期はそれぞれのオリジナルな問題関心から自由に選んだテーマについて調査考察し、発表します。積極的にディスカッションに参加するよう心がけてください。		
テキスト	その都度配布します。	参考文献	ベル・フックス『フェミニズムはみんなのもの』、中山和子他編『ジェンダーの日本近代文学』、岩渕宏子他編『ジェンダーで読む愛・性・家族』
評価方法	出席・授業参加:50% レポート:50%		

国文学特講Ⅱ		通年 4 単位	
1001年目の源氏物語		上原 作和 (うへはら さくかず)	
ねらい	千年の間読み継がれた『源氏物語』の次なる千年に向けて、物語通読のための課題を考えて行きます。前期は鎌倉から近代現代にかけての『源氏物語』享受の様相を考えます。後期は《光源氏の物語》《薫の物語》の精緻な分析を通して、〈音楽文化〉や〈書芸〉〈書香〉などの文化史背景から物語の世界を理解することを目標とします。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 入門『源氏物語』① 第2回 入門『源氏物語』② 第3回 入門『源氏物語』③ 第4回 院政期の『源氏物語』と『源氏物語絵巻』 第5回 『源氏物語絵巻』の成立 第6回 『源氏物語絵巻』の流転 第7回 河内本・青表紙本『源氏物語』の成立 第8回 撰家伝本『源氏物語』の成立 第9回 幕末の『源氏物語絵巻』の流転 第10回 昭和の『源氏物語絵巻』の流転 第11回 『源氏物語絵巻』詞書の研究① 第12回 『源氏物語絵巻』詞書の研究② 第13回 『源氏物語絵巻』詞書の研究③ 第14回 『源氏物語絵巻』詞書の研究④ 第15回 まとめ	<p>【後期】</p> 第1回 光源氏の世界① 第2回 光源氏の世界② 第3回 光源氏の世界③ 第4回 光源氏の世界④ 第5回 『源氏物語』と音楽① 第6回 『源氏物語』と音楽② 第7回 光源氏の世界⑤ 第8回 光源氏の世界⑥ 第9回 『源氏物語』とかな文化史① 第10回 『源氏物語』とかな文化史② 第11回 薫の世界① 第12回 薫の世界② 第13回 『源氏物語』と書香 第14回 薫の世界③ 第15回 まとめ	
進め方	○基本的に講義形式で進めます。ただし、一方通行にならぬよう、質問用紙を配布して、みなさんの疑問点や興味を持ったことを次回の講義に反映させる展開を考えています。		
テキスト	上原作和・陣野英則 校注訳、『光源氏と薫の世界 一冊で読む源氏物語/訳注付』武蔵野書院	参考文献	物語学の森 <a href="http://www.asahi-net.or.jp/~tu3s-uehr">http://www.asahi-net.or.jp/~tu3s-uehr</a> を適宜参照のこと。 上原作和編集『人物で読む源氏物語』勉誠出版
評価方法	出席:30% 参加態度:10% レポート等:60%		

国文学特講Ⅲ		通年 4 単位	
中世物語と近世小説		大木 京子 (おおき きょうこ)	
ねらい	悲恋物語を中心に、中世物語と近世小説を読んでいきます。主人公の設定や物語の展開には一定のパターンがありますが、引き継がれた部分と新しく創作された部分を指摘しつつ、各作品の魅力を探ります。一つのテーマに注目し、中世物語から近世小説への展開を理解するのが目的です。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 オリエンテーション 第2回 中世物語概説—鎌倉時代物語と室町時代物語 第3回 悲恋物語の系譜概説 第4回 中世軍記物語における悲恋 第5回 鎌倉時代物語における悲恋 第6回 室町時代物語「横笛草紙」を読む(1) 第7回 室町時代物語「横笛草紙」を読む(2) 第8回 「横笛草紙」の研究 第9回 室町時代物語「恋塚物語」を読む(1) 第10回 室町時代物語「恋塚物語」を読む(2) 第11回 「恋塚物語」の研究 第12回 室町時代物語「しのぼすが池物語」を読む(1) 第13回 室町時代物語「しのぼすが池物語」を読む(2) 第14回 「しのぼすが池物語」の研究 第15回 中世悲恋物語のまとめ	<p>【後期】</p> 第1回 近世小説概説—前期小説 第2回 仮名草子・浮世草子概説 第3回 芸能からの影響(謡曲) 第4回 芸能からの影響(浄瑠璃) 第5回 「浄瑠璃物語」を読む(1) 第6回 「浄瑠璃物語」を読む(2) 第7回 「恨の介」を読む(1) 第8回 「恨の介」を読む(2) 第9回 「恨の介」の研究 第10回 「薄雲物語」を読む(1) 第11回 「薄雲物語」を読む(2) 第12回 「薄雲物語」の研究 第13回 浮世草子の悲恋物語 第14回 中世悲恋物語からの影響と展開 第15回 中近世悲恋物語のまとめ	
進め方	講義形式で行います。できるだけ多くの作品を読み、検討を加えたいと思いますので、講義では主要な部分を取り上げて本文解説します。いくつかの作品を事前に読んでもらうことあると思いますが、ある程度の筋が理解できていれば十分です。読むべき作品などは、その都度指示を出します。様々な意見を出し合っていきましょう。		
テキスト	授業時にプリントを配付します。	参考文献	御伽草子事典(徳田和夫編、東京堂出版) 近世文学研究事典(雲英末雄・岡本勝編、おうふう)
評価方法	授業参加状況:40% 授業時の課題:30% レポート:30%		

国文学演習Ⅱ		通年 4 単位	
栄花物語を読む		中村 康夫 (なかむら やすお)	
ねらい	文学作品の表現は、様々な資料に根拠がある場合が多く、専門の注釈書類では詳細にその資料を掲げている。この演習では、一つの作品を読み進めると同時に、その作品の底辺に広がる資料群を、図書館の本を使ってできるだけ具体的に知ることをねらう。その知見の広がりは、さまざまな“文学”の可能性について視野を広げることになると思う。		
授業計画	<b>【前期】</b> 第1回 崩し字読解演習 第2回 崩し字読解演習 第3回 崩し字読解演習 第4回 崩し字読解演習 第5回 崩し字読解演習 第6回 崩し字読解演習 第7回 崩し字読解演習 第8回 崩し字読解演習 第9回 崩し字読解演習 第10回 崩し字読解演習 第11回 崩し字読解演習 第12回 崩し字読解演習 第13回 『栄花物語』絵入版本演習 第14回 『栄花物語』絵入版本演習 第15回 『栄花物語』絵入版本演習	<b>【後期】</b> 第1回 崩し字読解演習 第2回 崩し字読解演習 第3回 崩し字読解演習 第4回 『栄花物語』絵入版本演習 第5回 『栄花物語』絵入版本演習 第6回 『栄花物語』絵入版本演習 第7回 『栄花物語』絵入版本演習 第8回 『栄花物語』絵入版本演習 第9回 『栄花物語』絵入版本演習 第10回 『栄花物語』絵入版本演習 第11回 『栄花物語』絵入版本演習 第12回 『栄花物語』絵入版本演習 第13回 『栄花物語』絵入版本演習 第14回 『栄花物語』絵入版本演習 第15回 『栄花物語』絵入版本演習	
進め方	初めは、版本の文字になれることが必要なので、資料調査よりも、文字の読解に重きを置いた進み方をする。慣れてきたところで、注釈書を決め、資料調査などにはいる。これは演習なので、毎時間担当者を決め、報告してもらう。史料は漢文のものが多く、必要に応じて漢文を読む学習も入れることがある。		
テキスト	架蔵の版本のコピーなど、手作りの資料を配付する。演習の当番に当たった人は、配付資料がかなりの多さになる場合が考えられるので、早めに取り組	参考文献	授業中に指示する。必要に応じて一緒に図書館に出かけ、資料を探索する。
評価方法	崩し字演習(授業中):20% 栄花物語演習レポート:20% 出席:40% 発言等:20%		

国文学演習Ⅲ		通年 4 単位	
村上春樹と戦後……The World According to Haruki Mrakami		今井 清人 (いまい きよと)	
ねらい	“村上春樹”という屈折率で“戦後”を写してみようという試みです。作品ばかりでなくエッセイやさまざまな場での発言などの村上春樹言説を検討していきます。		
授業計画	<b>【前期】</b> 第1回 1950年代① 第2回 1950年代② 第3回 1950年代③ 第4回 1950年代④ 第5回 1960年代① 第6回 1960年代② 第7回 1960年代③ 第8回 1960年代④ 第9回 1970年代① 第10回 1970年代② 第11回 1970年代③ 第12回 1970年代④ 第13回 研究発表① 第14回 研究発表② 第15回 研究発表③	<b>【後期】</b> 第1回 1980年代① 第2回 1980年代② 第3回 1980年代③ 第4回 1980年代④ 第5回 1990年代① 第6回 1990年代② 第7回 1990年代③ 第8回 1990年代④ 第9回 2000年代① 第10回 2000年代② 第11回 2000年代③ 第12回 2000年代④ 第13回 研究発表① 第14回 研究発表② 第15回 研究発表③	
進め方	テキスト・資料をディスカッションしながら読んでいき、その後参加者各自が自由なテーマで発表します。		
テキスト	テキストは授業時に指示します。資料等は随時配布します。	参考文献	『村上春樹スタディーズ』若草書房ほか
評価方法	出席・授業参加度:80% レポート:20%		

国文学演習Ⅳ		通年 4 単位
近代文学の肉筆資料を読む		宗像 和重 (むなかた かずしげ)
ねらい	私たちは普段、活字のテキストで近代の文学作品を読んでいます。しかし、実際の手紙や万年筆などで書かれ、また作家の手紙や日記、創作ノートなど、近代文学の資料の多くは、肉筆で書かれています。この授業では、それらの資料を実際に読み進め、肉筆資料の面白さに触れるとともに、いわゆるくずし字に馴れ親しむ機会にしたいと思いま	
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 近代文学の肉筆資料 第2回 「変体仮名」に馴れる(1) 第3回 「変体仮名」に馴れる(2) 第4回 「変体仮名」に馴れる(3) 第5回 福沢諭吉「中津留別の書」を読む(1) 第6回 福沢諭吉「中津留別の書」を読む(2) 第7回 福沢諭吉「中津留別の書」を読む(3) 第8回 森鷗外「原稿」を読む(1) 第9回 森鷗外「原稿」を読む(2) 第10回 森鷗外「原稿」を読む(3) 第11回 岸田吟香の日記を読む(1) 第12回 岸田吟香の日記を読む(2) 第13回 夏目漱石の原稿を読む(1) 第14回 夏目漱石の原稿を読む(2) 第15回 前期のまとめ	<p>【後期】</p> 第1回 後期の授業予定について 第2回 夏目漱石の手紙を読む(1) 第3回 夏目漱石の手紙を読む(2) 第4回 夏目漱石の手紙を読む(3) 第5回 正岡子規のノートを読む(1) 第6回 正岡子規のノートを読む(2) 第7回 正岡子規のノートを読む(3) 第8回 樋口一葉の原稿を読む(1) 第9回 樋口一葉の原稿を読む(2) 第10回 樋口一葉の原稿を読む(3) 第11回 近代作家の多彩な肉筆資料(1) 第12回 近代作家の多彩な肉筆資料(2) 第13回 近代作家の多彩な肉筆資料(3) 第14回 肉筆と活字 第15回 授業のまとめ
進め方	最近では、いろいろな肉筆資料の写真版や複製が普及しています。授業ではそれらを使い、始めは読みやすいものから、原稿・手紙・日記・ノートなどを取り上げ、一緒に読み解いていきます。後期は、皆さんに関心のある肉筆資料の報告をしてもうすることも考えています。人数や授業効果を考えて、取り上げる資料や順番を変更することがあります。	
テキスト	授業中にプリントを配付する予定ですが、教室で説明します。	参考文献 授業中に随時紹介します。
評価方法	出席などの平常点:30% 後期の発表と質疑:30% 学年末レポート:40%	

国語学演習		通年 4 単位
日本語のあつかい方を学ぶ—日本語入門—敬語、方言、語源、女性語と男性語、また若者ことば、流行語と死語、新語、俗語などへのアプローチ		岡崎 和夫 (おかざき かずお)
ねらい	古代の日本語から現代の日本語へのうつりかわりのみちすじを、具体的な史料・資料に基づいて体験的に学びながら、上記<敬語>以下参加学生の関心にあわせて、日本語を探究して行く方法をお話します。※第1回より研究室参集	
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 導入：1「おとうさん」という語は、いつ出来た？ 第2回 導入：2「おかあさん」という語は、いつ出来た？ 第3回 <めんどい>は、いつ出来た？ 第4回 日本語のあつかいかた(1) 第5回 日本語のあつかいかた(2) 第6回 日本語のあつかいかた(3) 第7回 日本語のあつかいかた(4) 第8回 日本語のあつかいかた(5) 第9回 日本語のあつかいかた(6) 第10回 日本語のあつかいかた(7) 第11回 日本語のあつかいかた(8) 第12回 日本語のあつかいかた(9) 第13回 日本語のあつかいかた(10) 第14回 日本語のあつかいかた(11) 第15回 総合	<p>【後期】</p> 第1回 日本語探求法(1) 第2回 日本語探求法(2) 第3回 日本語探求法(3) 第4回 日本語探求法(4) 第5回 日本語探求法(5) 第6回 日本語探求法(6) 第7回 日本語探求法(7) 第8回 日本語探求法(8) 第9回 日本語探求法(9) 第10回 日本語探求法(10) 第11回 方言研究による日本語史の構築(1) 第12回 方言研究による日本語史の構築(2) 第13回 方言研究による日本語史の構築(3) 第14回 方言研究による日本語史の構築(4) 第15回 総合
進め方	たとえば、皆さんがよく知っている<めんどい>(=めんどくさい)を現代の若者ことばだと思いついてる人はいますか。それは、残念ながら、誤解です。そういう身近なところからスタートして、参加者の学的関心にあわせてテーマを選んで行きます。それによって、自己流を離れて日本語をあつかう方法を身につけて行きます。	
テキスト	第1回～第3回に、学生との対話の中で決定する。	参考文献 適宜、図書館資料を中心に指示。
評価方法	授業参加度:50% 授業貢献度:50%	

翻訳論		通年 4 単位	
日本文学の英訳や英米文学の英訳を原典と比較、鑑賞する		井原 真理子 (いはら まりこ)	
ねらい	皆さんは、今まで翻訳を通じて世界のさまざまな文学に親しんでいらしたと思います。さて、それらが「翻訳された」作品なのだということ意識したことはありませんか。この授業では、日本語では言い古された表現が英訳でかえってみずみずしく迫ってくるのを確認したり、英語の原典が持っている「微妙なニュアンス」について考えてみたいと思います。		
授業計画	<b>【前期】</b> 第1回 Introduction 第2回 翻訳の理論について 第3回 同上 第4回 俳句を読み、英訳と比較 第5回 同上 第6回 同上 第7回 同上 第8回 和歌を読み、英訳と比較 第9回 同上 第10回 同上 第11回 同上 第12回 同上 第13回 同上 第14回 同上 第15回 前期小論文について	<b>【後期】</b> 第1回 小テスト (辞書持ち込み可) 第2回 英米文学の作品を読みます。(作品は未定です) 第3回 同上 第4回 同上 第5回 同上 第6回 上記作品の翻訳をいくつか比較します。 第7回 同上 第8回 同上 第9回 同上 第10回 学生による発表 第11回 同上 第12回 同上 第13回 上記小説の映画化作品をいくつか比較鑑賞 第14回 同上 後期小論文について 第15回 まとめ	
進め方	日英米のさまざまな文学作品を取り上げ、まず、原典をよく鑑賞し、その後に翻訳作品を読んで、その特徴を論じてゆきます。学生には、授業中文章を書いたり、発表をしたりと積極的な参加を期待します。		
テキスト	授業中に随時配布します。	参考文献	辞書は必ず持参しましょう。
評価方法	平常点:40% 学期末小論文:60%		

民俗学		通年 4 単位	
柳田国男の世界－日本人の心の歴史をまなぶ		持田 叙子 (もちだ のぶこ)	
ねらい	主に、柳田国男の文章を中心に紹介しつつ、日本民族学についての基礎的な知識を得ることをめざします。日本民族学の創始者・柳田国男の文章は一般読者にむけて書かれたわかりやすく美しいものが多いです。そして年中行事をはじめ、お米やお酒の話、旅行の話、妖怪やおばけなど、私たちの生活の中の楽しく面白い話題が豊富です。		
授業計画	<b>【前期】</b> 第1回 柳田国男のプロフィール (故郷、生いたち) 第2回 " (日本人と山) 第3回 柳田国男と民俗学について 第4回 『遠野物語』前夜 第5回 『遠野物語』の世界 (山にいる、先住民への注目) 第6回 " (日本人と山) 第7回 " (オシラサマのふしぎ) 第8回 " ( " ) 第9回 " ( " ) 第10回 " (河童考) 第11回 " (日本人の霊魂感) 第12回 " ( " ) 第13回 " (ゆうれいの話) 第14回 " (死後の世界) 第15回 " (日本人と動物)	<b>【後期】</b> 第1回 『海南小記』の世界 (日本民族学と沖縄) 第2回 " (巫女の伝統) 第3回 " ( " ) 第4回 " ( " ) 第5回 『妹の力』 (女性の歴史) 第6回 『 " 』 ( " ) 第7回 『山椒太夫考』 (伝説の研究) 第8回 『桃太郎の誕生』 (昔話と日本人) 第9回 『塩雑談』 (塩の呪力) 第10回 『のしの起源』 (おせいぼの源) 第11回 年中行事と民俗 第12回 クリスマスとお正月 第13回 雪国のお正月 第14回 子どもの民俗 第15回 "	
進め方	なるべく1回1話の読みきりで、皆さんと一しょにさまざまな柳田国男およびその周辺の民俗学者の文章を読んでゆきます。著者や著作の背景を説明し、基礎的な教養も習得できるようにします。時間内には皆さんに、読後エッセイを書いていただいたり、一人一回こわい体験話や怪談、ふしぎな話や伝説を発表していただくので、ご協力をよろし		
テキスト	ちくま日本文学015『柳田国男』(文庫)880円 他は、そのつど配布いたします。	参考文献	『新潮日本文学アルバム 柳田国男』(新潮社) 『遠野物語の世界』(石井正己著、河出書房新社)など。他は授業時に指示いたします。
評価方法	レポート:70% 出席状況:30%		

創作演習・短歌		通年 4 単位	
短歌の世界へ		高野 公彦 (たかの きみひこ)	
ねらい	これは短歌の好きな人、短歌を作ってみたい人のための授業です。毎週、短歌を作ってもらいます。じっさいに短歌を作ることによって、短歌を作る楽しさ、及び短歌の奥の深さを知ってもらいたいと思います。		
授業計画	<b>【前期】</b> 第1回 短歌の話 第2回 作品2首提出、短歌の話 第3回 作品2首提出、作品批評 第4回 " " 第5回 " " 第6回 " " 第7回 " " 第8回 " " 第9回 " " 第10回 " " 第11回 " " 第12回 " " 第13回 " " 第14回 " " 第15回 作品批評、自選歌8首提出	<b>【後期】</b> 第1回 作品2首提出、短歌の話 第2回 作品2首提出、作品批評 第3回 " " 第4回 " " 第5回 " " 第6回 " " 第7回 " " 第8回 " " 第9回 " " 第10回 " " 第11回 " " 第12回 " " 第13回 " " 第14回 " " 第15回 作品批評、自選15首提出	
進め方	毎週、短歌を提出してもらいます。それをプリントして、みんなで批評し合います。作品の中から良いと思ったものを選び、感想を述べて下さい。必要に応じて教師も意見を言います。また、ときどき現代のすぐれた短歌を読んで鑑賞します。		
テキスト	なし	参考文献	高野公彦編『現代の短歌』（講談社学術文庫）
評価方法	作品（自選歌）の評価:60% 出席:30% 授業への参加度:10%		

修了論文演習		通年 4 単位	
修了論文題目と修了論文の提出期限			
<b>【担当教員】</b> 岡崎 和夫（おかざき かずお）、小林 正明（こばやし まさあき）、佐伯 眞一（さえき しんいち）、鹿倉 秀典（しかくら ひでのり）、鈴木 直子（すずき なおこ）、高野 公彦（たかの きみひこ）、藤本 勝義（ふじもと かつよし）			
修了論文題目 提出期限 2009年6月2日(火)午後4時30分（厳守）			
修了論文 提出期限 2009年12月8日(火)午後4時30分（厳守）			
修了論文枚数 400字詰め原稿用紙に換算して40枚以上			
提出先 教務課			

修了論文演習		通年 4 単位	
ふたたび、研究論文を書く		岡崎 和夫（おかざき かずお）	
ねらい	1. 本科の卒業論文内容をすこし発展させる。 2. とくに論の着想、論文の構想を楽しむ。 3. データや事実を大切にあつかう科学的姿勢を身につける。		
授業計画	<b>【前期】</b> 第1回 導入篇 第2回 データと方法を語る（A段階） 第3回 データと方法を語る（A段階） 第4回 データと方法を語る（A段階） 第5回 データと方法を語る（B段階） 第6回 データと方法を語る（B段階） 第7回 データと方法を語る（B段階） 第8回 データと方法を語る（C段階） 第9回 データと方法を語る（C段階） 第10回 データと方法を語る（C段階） 第11回 事実の発見と考え方の発見（A段階） 第12回 事実の発見と考え方の発見（A段階） 第13回 事実の発見と考え方の発見（B段階） 第14回 事実の発見と考え方の発見（C段階） 第15回 前期成果を語る	<b>【後期】</b> 第1回 導入篇 第2回 草稿の提出に向けての最終段階 第3回 草稿の提出に向けての最終段階 第4回 草稿の提出に向けての最終段階 第5回 書いて、拓げて行く体験について(1) 第6回 書いて、拓げて行く体験について(2) 第7回 書いて、拓げて行く体験について(3) 第8回 書いて、拓げて行く体験について(4) 第9回 書いて、拓げて行く体験について(5) 第10回 書いて、拓げて行く体験について(6) 第11回 書いて、拓げて行く体験について(7) 第12回 書いて、拓げて行く体験について(8) 第13回 発展させる方法を語る(A) 第14回 発展させる方法を語る(B) 第15回 発展させる方法を語る(C)	
進め方	毎回、気づいたこと、考えたこと、調べたこと、作業したことを具体的に話しに来て下さい。それを基に、私は、ほめたり、軌道を修正したり、考え込んだり、言うべき言葉を失ったりしながら、論理的に書くことや科学的に観察することや事実を大切にすべきことや、解釈の仕方が多岐であることや史料・資料そのものの扱い方などについて話します。		
テキスト	用いない。	参考文献	とりくむ内容に合わせて指示。
評価方法	進行報告内容:50% 論文の達成度:50%		

修了論文演習		通年 4 単位	
修了論文—専攻科総集篇として		小林 正明（こばやし まさあき）	
ねらい	「修了論文」は専攻科の総集篇といっても過言ではないでしょう。修了論文は、卒業論文のテーマや作品を生かしてもけっこうですし、べつのテーマや作品に転進してもけっこうです。とにかく、専攻科の貴重な1年間の記念碑として修了論文を位置づけていただきたいと思います。		
授業計画	<b>【前期】</b> 第1回 全体授業 第2回 面接授業 第3回 面接授業 第4回 面接授業 第5回 面接授業 第6回 面接授業 第7回 面接授業 第8回 面接授業 第9回 面接授業 第10回 面接授業 第11回 面接授業 第12回 面接授業 第13回 補遺Ⅰ 第14回 補遺Ⅱ 第15回 補遺Ⅲ	<b>【後期】</b> 第1回 面接授業 第2回 面接授業 第3回 面接授業 第4回 面接授業 第5回 面接授業 第6回 面接授業 第7回 面接授業 第8回 面接授業 第9回 面接授業 第10回 面接授業 第11回 補遺Ⅳ 第12回 補遺Ⅴ 第13回 補遺Ⅵ 第14回 修了論文講評 第15回 補遺Ⅶ	
進め方	面接を主とした修了論文の授業となります。面接スケジュールを利用して、一步一步、来るべき修了論文に近付いていきましょう。面談のさいには、学生のみなさんから、問題意識、着想、進歩具合などを提供していただき、担当教員である私の方からは、探求の前進に向けて、一緒に考えながら質問や助言をさせていただきます。		
テキスト	各自が必要に応じて、手配してください。	参考文献	面接授業のさい必要に応じて相談します。
評価方法	面接:40% 進捗と取り組み:30% 修了論文の出来具合:30%		

修了論文演習		通年 4 単位	
中世文学		佐伯 眞一（さえき しんいち）	
ねらい	修了論文演習とは、本科2年の修了を期して書いた卒業論文の後、さらに積み上げる研究です。卒業論文の上に何をプラスするのか、各自が自分なりの興味・関心に従って、自分なりの方向を考えてください。それがあって初めて、その方向に沿った研究を具体的にどう展開するかという、教員の指導があるわけです。		
授業計画	<b>【前期】</b> 第1回 論文作成の方向性について話し合う。 第2回 論文作成指導 第3回 同上 第4回 同上 第5回 同上 第6回 同上 第7回 同上 第8回 同上 第9回 同上 第10回 同上 第11回 同上 第12回 同上 第13回 同上 第14回 同上 第15回 同上	<b>【後期】</b> 第1回 論文作成指導（以下同） 第2回 同上 第3回 同上 第4回 同上 第5回 同上 第6回 同上 第7回 同上 第8回 同上 第9回 同上 第10回 同上 第11回 同上 第12回 同上 第13回 同上 第14回 同上 第15回 同上	
進め方	まずは、自分がそれまで何に興味を持って勉強してきたか、また、現在どのようなテーマに関心があるかを具体的に述べてもらいます。それに応じて、どのような研究の展開があり得るか、具体的な可能性を示し、それを自分なりに試してもらいます。以下は、その過程を繰り返すことにより、論文に上げてもらいます。		
テキスト		参考文献	
評価方法	論文内容（論理など）：90% 論文内容（文章など）：10%		

修了論文演習		通年 4 単位	
江戸時代文芸の研究		鹿倉 秀典（しかくら ひでのり）	
ねらい	江戸時代の文芸作品（小説・演劇・韻文など）を研究対象にして「修了論文」を作成します。本科の卒業論文よりも、さらに高度な、奥深い内容を目指しましょう。		
授業計画	<b>【前期】</b> 第1回 課題（テーマ）作成・研究ノート作成 第2回 10枚程度の概略文（個別指導）Ⅰ 第3回 10枚程度の概略文（個別指導）Ⅱ 第4回 10枚程度の概略文（個別指導）Ⅲ 第5回 添削指導 Ⅰ 第6回 調査研究期間 Ⅰ 第7回 調査研究期間 Ⅱ 第8回 調査研究期間 Ⅲ 第9回 調査研究期間 Ⅳ 第10回 個別指導 Ⅰ 第11回 個別指導 Ⅱ 第12回 下書き作成（添削指導）Ⅰ 第13回 下書き作成（添削指導）Ⅱ 第14回 下書き作成（添削指導）Ⅲ 第15回 夏休み前の確認	<b>【後期】</b> 第1回 下書き提出 第2回 添削指導 Ⅱ 第3回 添削指導 Ⅲ 第4回 補完調査期間 Ⅰ 第5回 補完調査期間 Ⅱ 第6回 補完調査期間 Ⅲ 第7回 清書のための報告 第8回 個別指導 Ⅰ 第9回 個別指導 Ⅱ 第10回 清書期間 Ⅱ 第11回 清書期間 第12回 個別指導 Ⅲ 第13回 清書期間 第14回 修了論文提出 第15回 最終報告	
進め方	自ら学ぶ姿勢を強く持って下さい。アドバイスは、適宜。時に応じて行います。原典資料の所在、その資料の読解方法、先行必読研究などに関する質問は、いつでも可能。しかし「修了論文」の作成に必要なのは、あなた自身の努力と感性、それに好奇心です。新しい「発見」を期待します。		
テキスト	各個人々の「テーマ」に応じて、それぞれに指示します。	参考文献	少々厚めの「研究ノート」、あるいは「研究用FD」を作成すること。それが、あなた自身の「参考文献」となります。
評価方法	過程報告（取り組み意欲）：40% 論文内容：60%		



修了論文演習		通年 4 単位	
近現代文学研究		鈴木 直子 (すずき なおこ)	
ねらい	近現代の文学を対象とし、各自の問題関心に沿って調査・研究をすすめ、修了論文の作成をめざします。諸作業を通じて、作品を取り巻く状況に理解を深め、文学作品を丁寧に読み解きます。また長い文章を論理的に構築し、わかりやすく適切に表現する技術を磨きます。		
授業計画	<b>【前期】</b> 第1回 インTRODakション 第2回 初回個別面接 第3回 初回個別面接 第4回 初回個別面接 第5回 全体会 第6回 調査研究指導 第7回 調査研究指導 第8回 発表とディスカッション 第9回 発表とディスカッション 第10回 発表とディスカッション 第11回 個別指導 第12回 個別指導 第13回 個別指導 第14回 個別指導 第15回 全体会 (前期のまとめ、夏期の課題確認)	<b>【後期】</b> 第1回 後期INTRODUCTION 第2回 夏期小論文にもとづく面接 第3回 夏期小論文にもとづく面接 第4回 夏期小論文にもとづく面接 第5回 全体会 (今後の課題の確認) 第6回 個別指導 第7回 個別指導 第8回 個別指導 第9回 個別指導 第10回 個別指導 第11回 個別指導 第12回 個別指導 第13回 個別指導 第14回 口頭発表 第15回 口頭発表	
進め方	各自研究テーマ・問題設定をします。それに基づいて文献調査・分析をし、自分なりの独自の結論を導き出す作業を各自行い、口頭発表と討論をします。		
テキスト	その都度指示します。	参考文献	その都度指示します。
評価方法	論文執筆の過程:50% 修了論文:50%		

修了論文演習		通年 4 単位	
詩歌の創造		高野 公彦 (たかの きみひこ)	
ねらい	短歌40首を作って卒論の代わりとします。創作の力を伸ばすための科目です。卒論の代わりとなるものですから、40首すべてレベルの高いものでなくてはなりません。そのための推敲を重視します。		
授業計画	<b>【前期】</b> 第1回 短歌の話 第2回 現代の秀歌鑑賞 第3回 " " 第4回 " " 第5回 " " 第6回 " (作品4首提出) 第7回 " ( " ) 第8回 " ( " ) 第9回 研究室にて面談 ( " ) 第10回 現代の秀歌鑑賞 ( " ) 第11回 " ( " ) 第12回 研究室にて面談 第13回 " " 第14回 " " 第15回 レポート提出	<b>【後期】</b> 第1回 作品の推敲 (作品4首提出) 第2回 " ( " ) 第3回 " ( " ) 第4回 研究室にて面談 ( " ) 第5回 作品の推敲 ( " ) 第6回 " ( " ) 第7回 " ( " ) 第8回 研究室にて面談 第9回 " " 第10回 作品の推敲 第11回 " " 第12回 " " 第13回 " " 第14回 " " 第15回 卒論返却	
進め方	いい作品を作るためには、現代のすぐれた短歌を読んで、いろいろなことを学ぶ必要があります。ですから初めのうちは<歌を読む>ことに重点を置いて、しだいに<歌を作る>ことを実行してゆきます。		
テキスト	なし	参考文献	なし
評価方法	作品40首の評価:60% レポート:20% 出席:20%		

修了論文演習		通年 4 単位	
平安朝文学の研究		藤本 勝義 (ふじもと かつよし)	
ねらい	本科の卒業論文等について、もう少し深く研究したい、あるいは別のテーマ・観点から学びたいことなど、もう一段レベル・アップを目指す修了論文を作成しよう。		
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第1回 1年間の授業の方法の提示と修了論文のテーマについて</p> <p>第2回 受講者の簡単な発表と指導①</p> <p>第3回 簡単な発表と指導②</p> <p>第4回 発表と指導①</p> <p>第5回 発表と指導②</p> <p>第6回 修了論文の題目決定について</p> <p>第7回 発表と参考文献等についての指導①</p> <p>第8回 発表と参考文献等についての指導②</p> <p>第9回 個人面談①</p> <p>第10回 個人面談②</p> <p>第11回 個人面談③</p> <p>第12回 夏休みの課題について</p> <p>第13回 個人面談④</p> <p>第14回 個人面談⑤</p> <p>第15回 個人面談⑥</p>	<p>【後期】</p> <p>第1回 修了論文の中間報告の提出と今後の予定について</p> <p>第2回 個人面談—中間報告についての指導①</p> <p>第3回 個人面談—中間報告についての指導②</p> <p>第4回 中間報告の訂正に関する発表と指導①</p> <p>第5回 中間報告の訂正に関する発表と指導②</p> <p>第6回 中間報告以後の発表と指導①</p> <p>第7回 中間報告以後の発表と指導②</p> <p>第8回 中間報告以後の発表と指導③</p> <p>第9回 中間報告以後の発表と指導④</p> <p>第10回 中間報告以後の発表と指導⑤</p> <p>第11回 修了論文の書き方等の指導</p> <p>第12回 個人面談</p> <p>第13回 個人面談</p> <p>第14回 個人面談</p> <p>第15回 修了論文の返却と講評</p>	
進め方	ほとんど個人面談で行う。本科と全く違う作品等を取り上げる場合のやり方は、本科同様、しばらくは、作品等を読み、ノートする作業を行う。しかし、本科と同じ作品の場合は、テーマに則した取り組み方をしてもらう。夏休み中に中間報告20枚を書いてもらい、そのレジュメをもとに個人面談を行うことは本科同様である。		
テキスト	個々人に、作品に応じてそれぞれ指示する。ノートを一冊用意すること。本文引用、調べたこと、気付いたこと等を書き込んでいくこと。	参考文献	個々人に、研究内容に応じて指示する。
評価方法	論文内容:70% 平常点:30%		

日本美術史		通年 4 単位	
古代・中世の美術		成原 有貴 (なりはら ゆき)	
ねらい	飛鳥・白鳳時代から室町時代までの美術について概説する。各時代の代表作の内容や表現の特徴について学ぶと共に、特に、日本と中国大陸・朝鮮半島との関係に注目しながら作品を捉え、広い視野で「日本美術」の歴史を学ぶ。具体的には、各時代の日本と大陸・半島との政治・外交・文化的関わりをふまえ、作品の社会的意義や機能を考える。		
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第1回 「日本美術」の成り立ち</p> <p>第2回 飛鳥・白鳳時代 法隆寺 玉虫厨子 1</p> <p>第3回 飛鳥・白鳳時代 法隆寺 玉虫厨子 2</p> <p>第4回 飛鳥・白鳳時代 法隆寺 金堂壁画 1</p> <p>第5回 飛鳥・白鳳時代 法隆寺 金堂壁画 2</p> <p>第6回 飛鳥・白鳳時代 高松塚古墳壁画 1</p> <p>第7回 飛鳥・白鳳時代 高松塚古墳壁画 2</p> <p>第8回 奈良時代 正倉院宝物 1</p> <p>第9回 奈良時代 正倉院宝物 2</p> <p>第10回 平安時代 唐絵とやまと絵 1</p> <p>第11回 平安時代 唐絵とやまと絵 2</p> <p>第12回 平安時代 仏画・仏教説話画・装飾経 1</p> <p>第13回 平安時代 仏画・仏教説話画・装飾経 2</p> <p>第14回 前期のまとめ</p> <p>第15回 試験</p>	<p>【後期】</p> <p>第1回 平安時代 絵巻 1</p> <p>第2回 平安時代 絵巻 2</p> <p>第3回 平安時代 絵巻 3</p> <p>第4回 鎌倉時代 絵巻 1</p> <p>第5回 鎌倉時代 絵巻 2</p> <p>第6回 鎌倉時代 絵巻 3</p> <p>第7回 鎌倉時代 仏画と仏教説話画 1</p> <p>第8回 鎌倉時代 仏画と仏教説話画 2</p> <p>第9回 室町時代 水墨画とやまと絵屏風 1</p> <p>第10回 室町時代 水墨画とやまと絵屏風 2</p> <p>第11回 室町時代 水墨画とやまと絵屏風 3</p> <p>第12回 室町時代 絵巻と物語絵 1</p> <p>第13回 室町時代 絵巻と物語絵 2</p> <p>第14回 後期のまとめ</p> <p>第15回 試験</p>	
進め方	講義形式で行う。パワーポイントで作品を映写する。授業時に数回、小レポート（作品についての記述など）の作成・提出を求める。		
テキスト	特に指定しない。授業の要点を記したプリントを配布する。	参考文献	『日本美術全集』講談社、『世界美術大全集 東洋編』小学館、日高薫『日本美術のことは案内』小学館 2003年。全集の該当巻などは授業時に指示
評価方法	試験:50% 平常点:50%		

日本文化史		通年 4 単位	
日本文化、素描のこころみ		小林 正明 (こばやし まさあき)	
ねらい	日本文化を素描すること。私たちは、例えば外国人なら外国人に、「これが日本の文化です」と、どの程度まで説明できるでしょうか。使用テキスト(和英対照の日本図解小事典)にそって個別現象を学習するとともに、履修者のみなさんの見聞や体験を交換することによって、日本文化らしきものが浮かび上がってくることを期待しています。		
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第1回 ガイダンスと情報交換。</p> <p>第2回 年中行事Ⅰ(ひな祭り、花見、七夕など)。</p> <p>第3回 年中行事Ⅱ(月見、年末年始など)。</p> <p>第4回 通過儀礼(結婚と葬式、出産、七五三など)。</p> <p>第5回 祭り。</p> <p>第6回 日本料理。</p> <p>第7回 食事作法と礼法。</p> <p>第8回 伝統芸能。</p> <p>第9回 活花、茶道、工芸など。</p> <p>第10回 迷信、十二支、占い、妖怪。</p> <p>第11回 将棋、百人一首、カルタ。</p> <p>第12回 鎌倉。</p> <p>第13回 京都。</p> <p>第14回 補遺Ⅰ。</p> <p>第15回 補遺Ⅱ。</p>	<p>【後期】</p> <p>第1回 情報交換。</p> <p>第2回 日本史人物ベスト3・ワースト3。</p> <p>第3回 横浜、開化小史。</p> <p>第4回 日本美術、ミュージアム。</p> <p>第5回 学校、教育。</p> <p>第6回 鉄道、駅弁、温泉。</p> <p>第7回 日本庭園、建造物。</p> <p>第8回 スーパー、コンビニ、デパート、商店街。</p> <p>第9回 皇室、国歌、国旗。</p> <p>第10回 医療、保険、介護。</p> <p>第11回 古典文学史ベスト10。</p> <p>第12回 山手線沿線(東京、渋谷、新宿、池袋など)</p> <p>第13回 若者文化とポップカルチャー。</p> <p>第14回 補遺Ⅰ。</p> <p>第15回 補遺Ⅱ。</p>	
進め方	基本的には、テキスト(図解付き、英文・和文併用記述、全ての英文に訳注があるわけではない)を使用。授業時間の内訳は①5分～10分程度の学生発表、②テキストの英文講読(教員)、③情報交換、と予定しているが、履修者の人数や希望により変更もありえます。発表は、割り当てによるが、各自の都合により、若干の調整もありえます。		
テキスト	『トレンド英語日本図解事典』(小学館)	参考文献	なし。発表者は google などの資料を利用してもよい(しなくてもよい)。
評価方法	出席・授業取り組み:20% 分担発表の実行:20% 発表内容:10% 発言実績:40% 発言申告書の提出:10%		

西洋文化史		通年 4 単位	
古代ギリシア演劇の世界		小林 薫 (こばやし かおる)	
ねらい	古代ギリシア演劇は、後のヨーロッパ演劇や文学に多大な影響を与えた。本講義では「三大悲劇詩人」アイスキュロス、ソポクレス、エウリピデスや、ギリシア喜劇詩人の代表アリストパネスの作品を精読する。これらの作品が上演された、紀元前後世紀の民主政アテネの社会状況についても学ぶ。		
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第1回 序論：ギリシア演劇の世界</p> <p>第2回 西洋近代における古典古代の受容</p> <p>第3回 民主政アテネの社会と文化</p> <p>第4回 ギリシア悲劇の上演制度</p> <p>第5回 アイスキュロス：『ペルサイ』1</p> <p>第6回 アイスキュロス：『ペルサイ』2</p> <p>第7回 アイスキュロス：『ペルサイ』3</p> <p>第8回 アイスキュロス：『ペルサイ』4</p> <p>第9回 アイスキュロス：『ペルサイ』5</p> <p>第10回 ソポクレス：『オイディプス王』1</p> <p>第11回 ソポクレス：『オイディプス王』2</p> <p>第12回 ソポクレス：『オイディプス王』3</p> <p>第13回 ソポクレス：『オイディプス王』4</p> <p>第14回 ソポクレス：『オイディプス王』5</p> <p>第15回 これまでのまとめ</p>	<p>【後期】</p> <p>第1回 エウリピデス：『メディア』1</p> <p>第2回 エウリピデス：『メディア』2</p> <p>第3回 エウリピデス：『メディア』3</p> <p>第4回 エウリピデス：『メディア』4</p> <p>第5回 エウリピデス：『メディア』5</p> <p>第6回 エウリピデス：『メディア』6</p> <p>第7回 ギリシア悲劇とギリシア喜劇：ジャンル論</p> <p>第8回 民主政アテネとペロポネソス戦争</p> <p>第9回 アリストパネス：『女の平和』1</p> <p>第10回 アリストパネス：『女の平和』2</p> <p>第11回 アリストパネス：『女の平和』3</p> <p>第12回 アリストパネス：『女の平和』4</p> <p>第13回 アリストパネス：『女の平和』5</p> <p>第14回 アリストパネス：『女の平和』6</p> <p>第15回 これまでのまとめ</p>	
進め方	本講義で扱う作品を事前に読んである事を前提に授業を行うので、必ず予習しておく事。スライドやDVDなどを視聴覚教材を用い、理解を助ける。		
テキスト	ソポクレス『オイディプス王』(藤沢令夫訳)岩波書店、1967年	参考文献	参考文献リストを配布する。
評価方法	期末試験(前期):30% 期末レポート(後期):50% 課題:10% 出席:10%		

東洋文化史		通年 4 単位	
東洋を知ろう		原田 理恵 (はらだ りえ)	
ねらい	今、中国はいろいろな意味で巨大な存在であると同時に、日本にとっては千年以上も前から政治・経済、そして何よりも文化的に深く関わってきた隣国です。その巨大な隣国の多様な文化について知り、考え、理解し、そして自らの社会や文化について再び問い直す機会となること、この授業のねらいです。		
授業計画	<b>【前期】</b> 第1回 陶磁器から時代を見る 1 第2回 陶磁器から時代を見る 2 第3回 陶磁器から時代を見る 3 第4回 陶磁器から時代を見る 4 第5回 古代中国世界の形成 1 第6回 古代中国世界の形成 2 第7回 古代中国世界の形成 3 第8回 古代中国世界の形成 4 第9回 孔子の生涯とその思想 1 第10回 孔子の生涯とその思想 2 第11回 孔子の生涯とその思想 3 第12回 孔子の生涯とその思想 4 第13回 商鞅の新法 第14回 韓非の時代 第15回 前期レポートについて	<b>【後期】</b> 第1回 法家の思想 1 第2回 法家の思想 2 第3回 性善の思想・性悪の思想 第4回 官僚—最も中国的なもの—1 郷拳里選と九品官人法 第5回 官僚—最も中国的なもの—2 科挙沿革① 第6回 官僚—最も中国的なもの—3 科挙沿革② 第7回 官僚—最も中国的なもの—4 科挙の実際① 第8回 官僚—最も中国的なもの—5 科挙の実際② 第9回 元朝秘史の世界 1 第10回 元朝秘史の世界 2 第11回 元朝秘史の世界 3 第12回 チングス・ハーンのモンゴル帝国 第13回 征服王朝 元 第14回 “東洋文化”の視点からもう一度日本を見る 第15回 試験	
進め方	講義が中心となります。「東洋の歴史」の広大な時間と空間の中から、中国世界を中心として人々の生活や思想あるいは社会のあり方など様々な観点で切り取ったいくつかのテーマを紹介します。一つのテーマを三週間程度の講義で修了し、その区切り毎に講義に関する質問・感想・意見等を書いていただき、次の授業で紹介いたします。		
テキスト	使用しません。	参考文献	授業で紹介します。
評価方法	平常点:30% レポート:30% 筆記試験:40%		

キリスト教と文化		通年 4 単位	
C. S. Lewisとキリスト教		伊藤 勝啓 (いとう かつひろ)	
ねらい	C. S. ルイス (1898—1964) の生涯を通して、その信仰と知性の在り方を学び、今日の文化に欠落しているものは何かを一緒に考える。		
授業計画	<b>【前期】</b> 第1回 概要の説明+このコースを取った理由と自己紹介 第2回 ルイスの幼・少年時代 第3回 母の死と家を離れる 第4回 学校生活、兄と友人 第5回 カーク・パトリック夫妻とともに 第6回 第一次世界大戦の中で 第7回 ミセス・ムーアとルイス 第8回 信仰にいたる巡礼 第9回 クリスマスとなってからの文学活動 第10回 第二次世界大戦とルイス 第11回 ナルニア国物語 第12回 最愛の人Joy Davidman Greshamに会うまで 第13回 Joyとの短い結婚生活 第14回 ルイス最後の日々 第15回 ルイスとキリスト教	<b>【後期】</b> 第1回 発表と論評 第2回 同上、2 第3回 同上、3 第4回 同上、4 第5回 同上、5 第6回 同上、6 第7回 同上、7 第8回 同上、8 第9回 同上、9 第10回 同上、10 第11回 同上、11 第12回 同上、12+クリスマス祝会 第13回 同上、13 第14回 同上、14 第15回 発表に対する講評とまとめ	
進め方	講義を中心とするが、その間ルイスの作品を直接朗読してもらい、後期はレジメを作り、クラスで発表・討論し、論評を加える。		
テキスト		参考文献	C. S. ルイス『喜びのおとずれ』 これはルイスの自伝にあたるもので是非読むようにすること。また、コーレンの『ナルニア国をつくった人』を読む
評価方法	出席:50% 発表:50%		